


高等部の取組



◆研究の実際	28
◆各作業班の実践	30
◆高等部のまとめ	36

高等部の研究について

【学部のテーマ】

自己の目標や課題が分かり、達成に向けて取り組む姿を目指した作業学習の実践
～職業科と連携した働く力を高めるための取り組み～

1 設定理由

(1) 育てたい力（本年度の学部の重点）から

本年度は、地域の関係機関と連携した職業教育の実践を重点とし、また、県の「実践的職業教育推進事業」の指定も受けたことから、生徒個々の働く力を高めるため、作業学習の充実を図ることとした。また、キャリア教育の視点を踏まえた授業実践の充実も重点に挙げ、職業科の指導内容を検討し、他の教科や合わせた指導との関連についても整理を進めることにした。

(2) 昨年度の研究から

2年計画の1年目だった昨年度は、職業科に焦点を当て、実習の事前事後学習を取り上げた。年間指導計画の見直しや授業実践を通して職業科の指導内容の共通理解が図られたが、3年間を見据えた職業科の指導内容の系統性については未整理のままになっていた。また、実習を通して生徒の目標や課題が明確になったが、それらを意識した取り組みが不十分という反省が挙げられた。

以上のことから、今年度は作業学習を軸として、職業科と関連させながら生徒一人一人の目標や課題の達成に向けて取り組み、働く力を高めたいと考え、本テーマを設定した。

2 研究仮説

学級担任、職業科担当、作業学習担当の3者が情報を共有し、個々の目標や課題の焦点化と達成に向けた取り組みや、実習の成果や課題のフィードバックなどを通して、生徒一人一人が自分自身のことを理解し、「何のためにやるか」「何ができるようになったか」「どんな力が必要なのか」などを分かり、働く力が高まっていくと考えた。また、職業科の指導内容表を整理することで、高等部3年間で系統的に学習を進めることができると共に、生徒一人一人の確かな学習の積み重ねにもつながっていくと考えた。

3 研究の内容と方法

(1) 職業科の指導内容の整理

- ・職業科の年間指導計画の見直し、指導内容表の作成

(2) 職業科と作業学習で目標や評価を共有するための「目標シート」の活用

- ・生徒および担当職員間での課題の把握
- ・目標シートと実習評価票との相互評価

(3) 生徒が主体的に取り組むための作業学習の実践

- ・目的を明確にした作業学習の展開、作業製品の質の向上
- ・作業工程、生徒間の協力体制等の手立ての工夫

(4) 生徒の変容の評価と授業改善

- ・ベースミーティングの活用による生徒の変容の評価とアプローチの工夫
- ・全作業班での授業研究会の実施による授業改善

4 研究の実際

(1) 職業科の指導内容の整理

今年度作成した指導内容表を参考に、各グループで年間指導計画を立て、実践を行う。その後、定期的に学年でミーティングを行い、指導内容表の加除修正を図る。また、指導項目にチェックを入れることで、3年間の系統性を図ることや引継ぎ資料として活用することを目指す。

(2) 職業科と作業学習で目標や評価を共有するための「目標シート」の活用

目標シートを使って、将来の生活に向けた目標や、それに関連して作業学習で取り組む目標を立てる。常に確認できるように、職業科や作業学習のファイルに目標シートを添付する。

【目標シートの例】

将来の生活に向けて、今後取り組む目標 ・どんな授業、場面で（ ① 先の見通しをもとに最後まで取り組む	担任の考える目標（これまでの実習の評価や、キャリア教育全体計画の目指す姿を参考にした目標）と大きくずれない内容で、生徒と相談して決める。
② 困っている時や力がかかっている時にあてないで行動する	
作業学習で取り組む目標 ① 草取りや水遣りや苗木植込等の作業に最後まで取り組む	上の目標に関連して、作業学習で取り組む目標を生徒と相談して決める。その際、作業学習の個別の指導計画の目標を参考にする。 →目標が決まったら、その目標で妥当かどうか、作業担当に確認する。
② 仲間にやさしい言葉や口調、態度で話す	
③ あいさつはいつでも 丁寧な挨拶が出来る	

作業学習では、目標シートを参考にして、作業日誌に毎時間の個人目標を設定して取り組み、振り返りと評価を行う。生徒の目標への意識や作業意欲を高められるように、学級担任や職業科担当にも日誌を回覧し、評価を記入してもらう流れにする。

現場実習の前後には、実習評価票を活用しながら成果や課題をフィードバックし、目標の見直しを図る。

【目標シートの活用に関する実施計画】

時期	内容	担当者
6月	目標シートの作成（前期）	学級担任、職業科担当→作業担当
6月～	目標シート活用開始、作業日誌の回覧・評価	作業担当→学級担任、職業科担当
7月	前期実習評価票の活用、目標の見直し	学級担任、職業科担当→作業担当
9月	目標シートの振り返り、見直し（後期へ）	学級担任、職業科担当→作業担当
10月～	後期目標シート活用、作業日誌の回覧・評価	作業担当→学級担任、職業科担当
11月	後期実習評価票の活用、目標の見直し	学級担任、職業科担当→作業担当
3月	目標シートの振り返り、見直し（次年度へ） 目標シートの活用方法の見直し	学級担任、職業科担当→作業担当

(3) 生徒が主体的に取り組むための作業学習の実践


生徒が「何のためにやるか」を意識して主体的に取り組めるように、地域資源を活用して作業内容や作業製品の質の向上を図り、生徒にとってやりがいのある作業学習を展開する。また、生徒個々の目標を達成できるような手立ての工夫を積み重ねる。

(4) 生徒の変容の評価と授業改善

高等部では、6つの作業班ごとにベースミーティングを行う。記録用紙に生徒の変容やポイントとなる手立てを記入し、PDCAサイクルでの授業づくり、授業改善を行う。また、全ての作業班で授業研究会を実施し、研修を重ねる。

5 各作業班の実践

(1) 縫製班

単元名	布製品とビーズストラップの製作 ～職業教育フェア販売に向けて～
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工程ごとのポイントが分かり、ポイントを意識して正確に作業する。 ・ 自分で製品の出来栄を確認し、必要に応じて自分から報告したり、教師に質問したりする。
キャリア教育全体計画との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観点1 判断するための知識習得と経験の積み重ね、状況への対応方法習得 ・ 観点2 挨拶習慣と礼儀作法の定着、決まりの遵守 ・ 観点3 助言の受け入れと素直な対応、集団での協同的な活動の充実 ・ 観点4 指示理解と迅速な取り掛かり、注意や指摘への耐性と適切な対応
ポイントとなる手立て	<p>○担当する工程の手順やポイントを理解し、進んで作業するために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 繰り返しの作業ができるように、工程の担当をある程度固定する。 ・ 工程ごとの実物見本や、作業手順が分かる写真カード、製作手順カードを用意する。 <p>○担当した工程の出来具合の評価を次に生かすために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 即時評価を口頭で伝えた上で、教師が付箋に記入して生徒に渡す。 <p>○お客様が求める製品作りができるように</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 製品の評価を知り、改善点が分かるように、アンケートを実施する。 <hr/> <p>○「何を学んだか」「何ができるようになったか」という視点から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 付箋に書かれた即時評価を参考に、自己評価や次時の目標設定をできるようにする。 ・ 日誌の「目標」の記入は、前時の「次回がんばること」を参考にして記入するようにする。また、「目標」設定の際に、「目標シート」の内容を参考にして考えるよう提案する。 ・ 授業の始めに「目標」を記入した後に、教師が確認する時間を設ける。また、授業の終わりには、目標を確認した教師から直接評価を伝える時間を設定する。
生徒の変容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ作業を繰り返し行うことで、ポイントが分かり、基本的な技術や道具の使い方が身に付いた。また、迷った時には、見本や写真カード、製作手順カードを手掛かりにするように指導したことで、教師に聞かずに自分から進んで確認する姿が見られた。 ・ 日誌の「目標」の記入の際に、何を書いたらよいか分からず迷う生徒がいたが、前時の「がんばること」を参考に記入できた。また、「目標シート」の内容を参考に考えてみるように提案したところ、態度面での目標を考えることができ、有効であった。 ・ 自己評価を記入する際には、何を書くのか悩んで時間が掛かることや、書く内容が毎回同じような内容になることがあったが、即時評価した付箋を配布することで、それを参考に記入することができた。記入時間が短くなり、内容も具体的なものになった。 ・ コースターについてのアンケート結果では、刺し子の模様の縫い目やデザイン、布の色などを改良したほうがいいという意見があった。それを受けて、お客様から求められる製品について生徒同士で話し合った結果、縫い目が真っ直ぐにそろうように縫おうとする意識が高まった。 <div data-bbox="1050 1720 1398 1962" style="text-align: right;">  <p>製作手順カードを手掛かりに</p> </div>

(2) エコ・クラフト班

<p>単元名</p>	<p>香り玉 (エコロン) を作る② ～センター販売へ向けて～</p>
<p>単元の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・製品作りの工程や手順が分かり、目標数を意識したり、部材の流れを通して友達と関わったりしながら作業に取り組む。 ・場に応じた挨拶、返事、依頼、報告をする。
<p>キャリア教育全体計画との関連</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観点3 必要な場面での意思伝達 ・観点4 与えられた仕事の遂行
<p>ポイントとなる手立て</p>	<p>○自他の作業工程を意識して取り組むために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製品完成までの流れ (自分の役割) を意識して取り組むことができるように、自他の作業工程の流れに沿って板書したり、振り返りで活用したりする。 ・友達と協力した作業を意識できるように、部材の流れを通して、工程ごとに依頼場面を設定する。 <p>○自分や友達の頑張りが分かり、認め合うための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、個々に目標数を設定し、それに応じた自己評価や反省を行う。次時では、前時の出来高や反省を基に目標 (数) を設定する。 ・全体での振り返り場面で、個々の出来高を目標 (数) と照らし合わせながら紹介し、称賛し合える場面を設定する。 ・各販売会へ向け、みんなで目標に向かうことができるように、話し合いで販売数を決めたり、全体の出来高表を活用し、進捗状況を確認したりしながら進めるようにする。 <hr/> <p>○「何を学んだか」「何ができるようになったか」という視点から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出来高表を継続して活用することで、自分たちで本時の目標数を設定できるようにする。また、目標数を意識して一定以上のスピードで作業を継続できるようにする。 ・材料や道具の置き場を固定することで、自分たちで準備や後片付けを行う (場合によっては声を掛け合ったり、手伝ったり) など、自主的・自発的な行動を取れるようにする。
<p>生徒の変容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・流れに沿って作業工程を板書したことで、工程ごとの繋がりをより意識するようになり、一人一人が目標達成を目指して取り組むようになった。また、個人の日誌や出来高表、全体の出来高表を活用することで、一人一人が目標 (数) を意識するようになり、ほぼ一定のペースで作業ができるようになってきた。 ・繰り返しの作業をすることで、一人一人が自分のやるべきことを理解し、自分の役割に責任をもって取り組むようになった。また、友達同士の関わりが増え、自分たちで作業を進めることができるようになった。5分間の休憩時間もリーダーを中心に声を掛け合い、時間を守って速やかに行動することができるようになった。 ・報告や依頼など、相手と呼名してから話すことを繰り返したことで、段々と習慣化されてきた。友達同士のやりとりの中においても、お互いに言葉を交わすようになってきた。 <div data-bbox="1007 1290 1390 1574" data-label="Image"> <p>板書 (工程表)</p> </div> <div data-bbox="1098 1592 1374 1783" data-label="Image"> <p>出来高表 (個人)</p> </div> <div data-bbox="1066 1789 1394 1980" data-label="Image"> <p>友達との関わり (依頼場面)</p> </div>

(3) ビルクリーニング班

<p>単元名</p>	<p>校内清掃に取り組もう①</p>
<p>キャリア教育全体計画との関連</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観点3 必要な場面での意思伝達 ・観点4 与えられた仕事の遂行
<p>単元の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な場面で報告や質問をする。 ・清掃箇所の工程や用具の使い方を覚える。
<p>ポイントとなる手立て</p>	<p>○基本的な技術を身に付けるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一つ一つの工程を正しく覚えられるように、物の置き方やモップを掛ける手順などを写真カードで提示する。 ・工程表に沿って一人で作業できるように、1年生には学習室などの小さな教室を割り当てる。 ・必要な生徒には、同じ場所で繰り返し練習する機会を設ける。 <p>○どんな場所でも使える力を身に付けるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな場所の清掃に対応できるように、特別教室や他学部の教室、ホール、階段などを清掃する機会をもつ。 ・掃除機やポリッシャー掛け、流し清掃など、新たな用具を使って作業をする機会をもつ。 ・プロの清掃員の作業を見学する機会をもつ。 <hr/> <p>○「何を学んだか」「何ができるようになったか」という視点から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日誌の目標をできるだけ具体的に、スモールステップで達成できるようにする。 ・清掃技術のチェック表を用意し、各工程の達成度が分かるようにする。 ・その日の各生徒の担当職員を決め、きちんと評価ができるようにする。 ・職業教育フェア錬成会に向けての練習を行い、各工程の習熟度が分かるようにする。 ・作業の工程や用具の使い方について、どうしてそうしなければならないのかを、自分の言葉で説明する機会をもつ（動画で振り返りながら考える）。
<p>生徒の変容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃技術が未熟な生徒は、職員と一緒に教室清掃を行ったり、センター体育館や学校体育館でのダスター掛けやモップ掛けを集中的に行ったりしたことで、少しずつ技術が身に付いてきた。 ・清掃技術が身に付いた生徒は、校外清掃で安全や挨拶を意識して取り組んだり、自分たちで役割分担して進めたりすることができた。 ・ホワイトボードに個人目標を記入し、振り返りで評価も記入することで、それぞれの目標を意識して取り組めるようになった。また、工程チェック表に即時評価を記入することで、そのことを振り返り、次時の目標を立てられるようになった。 ・清掃技術のチェック表を使用したことで、各生徒の課題点が明確になり、より具体的な目標を立てて取り組めるようになった。 ・錬成会に向けての練習を通して、タオルの持ち方や小ぼうきの使い方など、細かな部分の技術を高めることができた。 <div data-bbox="1061 1294 1362 1585" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1114 1585 1316 1621" data-label="Caption"> <p>教室清掃の様子</p> </div> <div data-bbox="1102 1659 1358 1944" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1118 1951 1326 1986" data-label="Caption"> <p>校外清掃の様子</p> </div>

(4) 食品加工班

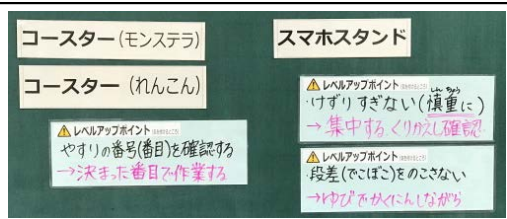
<p>単元名</p>	<p>ジャムを作ろう ～みどりフェアの販売に向けて～</p>
<p>単元の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャムの調理で自分の役割が分かり、協力や役割分担をしながら準備や片付けを行ったり、衛生面や安全に気を付けて作業したりする。 ・販売に向け、生徒同士で作るジャムの目標数の設定や在庫管理を行う。
<p>キャリア教育全体計画との関連</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観点1 知識・技術習得と経験の積み重ね ・観点3 主体的な判断、集団での協同的な活動の充実 ・観点4 役割の遂行、目的に向けた取り組み
<p>ポイントとなる手立て</p>	<p>○衛生面や安全面の意識付け、調理の知識・技術の習得のために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身仕度や調理に必要な準備物を覚えることができるように、視覚的に確認できる身仕度チェック表や準備物リストを提示する。 ・安全に調理できるように、りんごやトマトなど材料に応じた切り方や、鍋の扱い方を示す。 ・調理器具の使い方やジャム作りの工程を覚えることができるように、最初は担当する工程を固定する。身に付いてきたら段階的に役割を変える。 <p>○生徒主体の活動を増やすための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に活動できるように、ジャム作りの工程表やてんさい糖の計量の手順表、出来高表を準備する。 ・生徒同士で相談して準備や片付け、作業を進められるように、リーダーを中心に生徒たちで相談する機会をもつ。また、今までの販売数から、次の販売に向けて作るジャムの目標数を決める話し合いの場を設定する。 ・完成したジャムの個数の確認や出来高表の記入、在庫管理を生徒が主体的に行えるように、教師の役割を最小限にする。 ・課題に応じて、ペアで調理工程を役割分担する。 <p>○「何を学んだか」「何ができるようになったか」という視点から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が目標の達成に向けて自分で意識できるように、態度面、技術面など日誌の項目や目標をできるだけ具体化する。 ・目標をどの程度達成できたかを評価できるように、実際の場面を捉えたり振り返る機会を設けたりする。 ・生徒同士で目標数の設定やジャムの在庫管理をできるように、工程表や出来高表を活用したり、生徒主体の活動を増やしたりする。
<p>生徒の変容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調理工程の役割分担を最初は固定し、習熟度が高まってから役割を変えたことで、調理器具の使い方やジャム作りの工程を覚え、技術面でも向上が見られた。 ・課題に応じた生徒のペアで調理の工程を役割分担したことで、生徒同士で相談して準備や片付け、調理を進めることができるようになってきた。 ・態度面・技術面などの目標を具体的に決めたことで、振り返りで「どの場面で」「どのように」と詳しく評価を記入したり、生徒同士で評価し合ったりすることが増えてきた。また、その日の反省から次時の目標を立てられる生徒も増えてきた。 ・教師の役割を最小限にし、工程表や出来高表を活用したり、生徒主体の活動を増やしたりすることで、生徒同士で目標数の設定やジャムの在庫管理ができるようになった。話し合いの場面では、リーダーを中心に相談し、サポートする場面が多く見られるようになってきている。 <div data-bbox="1109 1391 1399 1624" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1109 1668 1399 1901" data-label="Image"> </div>

(5) 木工班

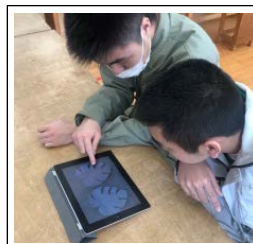
<p>単元名</p>	<p>木工雑貨を作ろう ～みどりフェアの販売に向けて～</p>
<p>単元の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工程や正しい道具の使い方等を理解し、販売日に向けて製品や展示品をそろえたり、販売されることを想定して丁寧に仕上げたりする。 ・ 出来高や進捗状況が分かり、進んで作業に取り組んだり、教師や友達と報告・連絡・相談をしたりする。
<p>キャリア教育全体計画との関連</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観点3 主体的な判断と能動的な行動実践 ・ 観点4 目的に向けた能動的な取組
<p>ポイントとなる手立て</p>	<p>○基本的な技術を身に付けるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ミーティングで、実際の製品やタブレット端末での作業映像の提示を行い、お互いの取組を評価し合う。 ・ 作業工程を分担するときには、作業経験の豊富な生徒に確認作業の一部を任せするなど、生徒同士が必然性をもって関わる状況づくりを行う。 ・ 作業の手順や留意点などをいつでも確認できるように、内容をカードにまとめ、工具や補助具と合わせて収納しておく。 <p>○チームで目標を達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 販売数を目標に、担当する工程や製品を分担して取り組む。 ・ 進捗状況や担当生徒の数に合わせて、優先する作業を話し合う機会をもつ。 <hr/> <p>○「何を学んだか」「何ができるようになったか」という視点から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 習熟している生徒と練習中の生徒の製作場面を動画で記録し、製品の仕上がりや作業動作（工具の配置も含む）が関連することを確認したり、改善したい動作を比較したりする。 ・ 要点を絞って、肯定的な観点（ここを頑張ればレベルアップできる）で振り返りができるように、「本時で頑張ったこと」、「次時に頑張ること」の項目を加えるなど、作業日誌の様式を改善する。
<p>生徒の変容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミーティングや日誌での振り返りを通して、生徒自身が課題を意識し、出来高や仕上がり、映像等で確認するようになった。どうすれば課題が解決できるか、解決できた状況はどのようなものかを話題にするなど、課題解決に向けて意見を出し合い、相互評価し合う場面が見られるようになった。 ・ 進捗状況に合わせて自分から他の工程を手伝うことを提案したり、作業効率を考えて道具や資材の位置を判断したりする場面が見られた。 ・ 製造工程の中に生徒同士確認し合う場面を導入したことで、自分の作業動作の見直しや効率的な説明を考える機会になった。



生徒同士の確認







課題と解決法（生徒の発言を受けて）



映像での確認

(6) 農園芸班

<p>単元名</p>	<p>栽培、収穫した野菜を販売しよう② ～学園祭での販売活動に向けて～</p>
<p>単元の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 野菜の栽培の一連の過程を繰り返し行い、道具を適切に使用する。 ・ 販売活動を行い、相手（お客）との関わり方を身に付ける。
<p>キャリア教育全体計画との関連</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観点3 他者との協力・協同 ・ 観点4 集団における役割への気付きと遂行
<p>ポイントとなる手立て</p>	<p>○主体的な取り組みと基本的な技術を身に付けるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的に取り組むために、農具の使い方や「定植」などの言葉の意味、野菜に応じて畝の高さを変える意味など、技術面だけでなく、知識面の部分を作業前に確認する。 ・ 販売準備や販売活動では、責任をもって作業に取り組み協力して進められるように、グルーピングの工夫や分業制の導入を行う。 ・ 見通しをもてるように、同じ活動を繰り返し行う。 <p>○「何を学んだか」「何ができるようになったか」という視点から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次の活動につなげられるように、販売活動後、成果と課題、改善点について意見を出し合う時間を設ける。 ・ 「もっと良くするために」の視点で、事前に販売方法を相談したり、振り返りの場面で確認したりする。
<p>生徒の変容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人目標の共通理解を図ることで、何を頑張るかを意識して取り組むことができた。また、活動内容や態度に関して即時評価を行うことで、自信をもって取り組む姿につながった。 ・ 袋詰めについては、2回の準備・販売の経験を生かし、重さを量る、袋に詰める、袋の口を閉じるなど、活動内容を理解し、自分から取り組むことができるようになった。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10px;"> <p>野菜の袋詰めの様子</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 販売活動の写真を友達同士で見合いながら、内容を振り返り、成果や課題、改善点について意見を出し合った。お客さんが混雑したという課題に対して、混雑を解消するための工夫について話し合い、次の販売で課題を改善することができた。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10px;"> <p>販売活動の様子</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10px;"> <p>改善後の販売活動</p> </div> </div>

6 高等部のまとめ（成果と課題）

（1）生徒の変容と授業改善

①目標の共通理解・評価方法の改善

「目標シート」の活用に伴い、作業日誌の目標設定や評価の項目が改善され、毎時間の目標設定→評価→改善というサイクルが定着した。また、目標設定や作業日誌の回覧を通して、作業学習担当、学級担任、職業科担当が、生徒一人一人の付きたい力の育成について共通理解することができた。各作業班の実践の中では、作業を進める上でのキーワード提示や即時評価、相互評価など、目標設定や評価方法が改善された。

②作業学習のねらいの明確化・作業内容の質の向上

作業班ごとのベースミーティングや授業研究会では、複数の目で生徒を評価することや、有効な手立てや評価の仕方などを共有することができた。また、地域での本物の作業体験や販売機会の充実によって作業学習のねらいを明確にすることや、作業製品の改善や外部講師の活用、役割分担等の工夫によって作業内容の質を向上させることができた。農園芸班では、冬の作業種の開拓にもつながった。

③生徒の目的意識の向上・身に付けた力の応用

以上のような実践を通して、生徒が自己の目標を明確にもって学習に取り組むようになってきた。また、作業班全体の目標や、作業班の仲間が行っている作業工程・出来高等への意識も高まり、意見を出し合う場面や協力して取り組む場面が増えた。さらに、前期実習の課題を自覚し、作業学習を通して改善したことで、後期実習での高評価につながった生徒もいた。

（2）今後に向けて

①生徒主体の取組ができるように

目標シートを活用することで、作業学習で個々の目標を意識した取組を充実させることができたが、目標シートの内容を振り返り、生徒自身が評価する場面を効果的に設定することは難しさがあつた。

今後は、生徒が将来の生活を意識し、より主体的に活動に取り組めるようにすることが課題である。本人の夢や希望とのつながりを考慮に入れて目標を設定することや、課題だけではなく長所や進歩も含めて評価し、「身に付けた力がこういう場面に生かされる」と見通しをもてるようにすることなど、将来をより意識できるような取組を進めていきたい。

②職業科の指導内容を充実させるために

職業科では、指導内容表を基にして、各学年、各グループで話し合い、年間指導計画の見直しや指導内容の検討ができたが、実態に応じた指導内容の精選、学年間の系統性の確立などが引き続き課題である。生徒一人一人の働く力を高められるように、今後も職業科と他の学習活動を相互に関連させて展開する指導の工夫をしながら、実践を重ねていきたい。

③多様な視点を生かせるように

今年度の実践を受けて、個別の指導計画の評価をさらに意識して取り組むことや、身に付けた力を他の場面でも使うことができるように、キャリア教育全体計画の項目を意識して取り組むこと、生徒が自分自身を理解して活動に取り組めるように、教育相談や自立活動の視点を大切にすることなど、様々な視点を意識して取り組んでいきたい。